

## レファレンス・コーナー -- グローバリゼーション -- アジ研の研究成果から (ブックシェルフ)

著者	鈴木 陽子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	147
ページ	53-53
発行年	2007-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://doi.org/10.20561/00047049">http://doi.org/10.20561/00047049</a>

## レファレンス コーナー グローバリゼー ション—アジ研の 研究成果から—

鈴木陽子

「グローバリゼーション」という用語が使われ始めて久しいが、発展途上地域をめぐる状況も「グローバリゼーション」の広がりにつれて変化してきた。当図書館で収集した資料を「グローバリゼーション」という主題件名で検索してみると、二〇〇二年から二〇〇六年の五年間に刊行された日本語資料にかぎっても、図書二二二点、雑誌論文二二二点が該当する。「グローバリゼーション」と発展途上地域との関わりは大きいと推測できよう。アジア経済研究所でも、「グローバリゼーション」をめぐる議論が盛んに行われてきており、「平成一八年度調査研究課題」を見ると、実施された五五研究会のうち一四研究会において、研究会活動の紹介が「グローバリゼーション」、「経済のグローバル化」等の用語を使用して行われている。それでは、当研究所は「グローバリゼーション」とどのような関わり方をして

きたのか。今号のレファレンスコーナーでは、「グローバル化」をめぐる当研究所の研究会活動を二〇〇二年以降の研究成果に的を絞って紹介していきたい。

寺尾忠能・大塚健司編『アジアにおける環境政策と社会変動—産業化・民主化・グローバル化—』（研究双書五四一、二〇〇五年二月）は平成一四年度から一五年度にかけて実施された研究会の成果で、アジアにおける経済開発過程で展開されている環境政策の問題点と解決方法を探っているものであり、寺尾忠能・大塚健司編『開発と環境』の政策過程とダイナミズム—日本の経験・東アジアの課題—』（研究双書五二七、二〇〇二年一月）で行われた議論と残された課題を引き継いでいる。

今泉慎也編『国際ルール形成と開発途上国—グローバル化する経済法制改革—』（研究双書五五九、二〇〇七年三月）は平成一六年度から一七年度にかけて実施された研究会の成果で、経済のグローバル化に対応して開発途上国において進められている経済法制改革を分析するための方策を探ろうとする試みである。中間報告書として、今泉慎也編『開発途上国の経済法制改革とグローバル化』（調査研究報告書、二〇〇五年三月）、また、『アジ研ワールド・トレンド』（以下、本誌）（第二二巻九号、二〇〇六年九月）に「特集—グローバルなルール形成と開発途上

国—」と題する特集も組まれた。

さらに、重富真一編『グローバル化と途上国の小農』（研究双書五六〇号、二〇〇七年八月）は平成一七年度から一八年度にかけて実施された研究会の成果で、途上国農村での実地調査に基づいて小農の経営分析を行い、グローバル化が小農の生活に及ぼす影響を明らかにしようとしている。途上国農業をめぐるマクロ経済については中間報告書、重富真一編『グローバリゼーションと途上国農村市場の変化—統計的概観—』（調査研究報告書、二〇〇六年三月）がある。また、児玉由佳編『グローバリゼーションと農村社会—経済構造の変容—』（調査研究報告書、二〇〇五年三月）はこの研究会の準備段階における成果である。

二〇〇二年一月に四年をかけたプロジェクトの総まとめとして開催された国際シンポジウムの報告書、山澤逸平・天川直子編『二一世紀の開発戦略—グローバリゼーション下の発展途上国の経験と展望—』（二〇〇二年三月）は、当研究所の研究の三本柱と位置づけている開発研究、地域研究、経済協力研究の成果をもとに組み立てられたものである。本誌第八巻第五号（二〇〇二年五月）には同じタイトルでの特集が組まれている。

『国際シンポジウム「グローバル化と地域統合—空間経済学の視点から—」開催報告書』（二〇〇四年二月）は、経済学の新しい分野であ

る空間経済学の手法によってグローバル化、ポータレシスを説明しようとした試みである。本誌第二二巻第四号（二〇〇五年四月）に同タイトルで特集も組まれた。

他に、星野妙子編『開発途上国の企業とグローバリゼーション』（研究双書五二二、二〇〇二年三月）は企業研究の視点からグローバリゼーションを扱った研究成果で、ラテンアメリカ四カ国とアジア三カ国を取り上げている。国宗浩三・久保公二編『金融グローバル化と途上国』（研究双書五三六、二〇〇四年一月）は、アジア経済危機の原因とその後金融、経済の建て直しについて考察した平成一四年度の研究会の成果である。前述した以外にも本誌において、二〇〇二年六月に「グローバル開発ネットワーク—世界銀行の暖簾分け—」、一月には「グローバリゼーション時代—アジアの対応—」の二本の特集を組んでいる。

いずれもグローバル化を当研究所ならではの切り口で検証した力作である。発展途上地域とグローバル化は今や切っても切れない問題であるが、今年度も八研究会で「グローバル化」について触れられており、年度末の成果の刊行が待たれるところである。

\*本稿で紹介した資料はいずれも日本貿易振興機構アジア経済研究所の出版。

（すぎき よつこ／アジア経済研究所図書館）